



FUJIEDA SOUTH ROTARY CLUB

藤枝南ロータリークラブ会報

例 会：毎週金曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL：054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040
 E-mail: club1991@fujieda-rotary.org

会長：村松 章隆 副会長：早川 清人 幹事：内山 淑夫 副幹事：松浦 正秋

第1012回



<http://www.fujieda-rotary.org>

- ソング 君が代・奉仕の理想
- ソングリーダー 中山 恵喜君

会長報告

村松 章隆君

皆さんこんにちわ！ 本日は、第一例会で、新入会員の方の入会式があったり、スケジュールがつまっておりますので、私の報告挨拶は、簡単にさせていただきます。

一点、来週は、私がどうしてもお呼びしなかった元全日本女子サッカー代表で、現在のなでしこJapanの礎を築いてくれた現在常葉高等学校女子サッカー部の監督で、又、女性で、S級の資格をもっている 皆さんもご存じの半田悦子さんによる外部卓話になっております。是非多くの方の出席をお願いします。

幹事報告

内山 淑夫君

- 第2620地区より
10月のロータリーレートのお知らせが届いております。1ドル=80円です。
- 第2620地区より
山梨新聞掲載記事の紹介が届いております。
- 第2620地区より
青少年交換マンスリーレポートが届いております
- 公益財団法人米山記念奨学会より
お知らせと配布物「豆辞典」・2011年度事業報告書が届いております。

入会式

本日、寺田章君、佐野裕基君が入会されました。



氏名：寺田 章てらだ あきら

勤務先：(株)城南メンテナンス
 住所：藤枝市築地323
 役職：代表取締役

氏名：佐野 裕基さの ひろき

勤務先：富岡屋
 住所：藤枝市藤枝4-1-1
 役職：代表

出席報告

望月 誠君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
36 / 43 83.72%	34 / 41 82.92%

- (1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)
 漆畑君 川口君 高杉君 渡邊博君
 藁品君 伊藤彰君 池谷君
- (2)メイクアップ者
 漆畑 雄一郎君(藤枝) 朝比奈 潔君(島田)
 鈴木 徹君(島田) 山田 壽久君(島田)

ビジター

石垣 善康君(藤枝)

スマイルBOX

望月 誠君

- 先月9月6日で54才となりました。以前申し上げました様に、「さんざん苦労する」昭和33年9月6日生まれです。これからもロータリークラブの皆さんとおつきあいさせていただきます。 鈴木 徹君
- 誕生日プレゼントありがとうございました。 樽井 勉君
- 夫人誕生のプレゼントありがとうございました。 植田 裕明君

- 妻の誕生プレゼントありがとうございました。息子も8月で1歳になりました。2人目が欲しいものです。 中山 恵喜君
- いつもありがとうございます。昔は超美人だったのですが……。おとなしい性格でよかったぁ……。 内山 淑夫君
- 妻の誕生日プレゼントありがとうございました。そして結婚記念日のお祝いも合わせてありがとうございました。これからもよろしく願い致します。 山田 壽久君
- 結婚記念日、何回目かも忘れていました。 小池 吉久君
- 10月1日より藤枝市教育委員を拝命しました。がんばります。 松浦 正秋君

スマイル累計額 270,732円

■ 会員卓話

植田 裕明君



内憂外患。国内政治においても外交においても国政は問題山積です。尖閣竹島問題、かつてない関係におちいつている日中間、日韓間の状況。国内においても、24年度なかばとなっているにもかかわらず、いまだ通らぬ特例公債法案、是正されぬ最高裁が違憲状態と指摘している一票の格差。総理大臣自身が問責決議を受け、開会も定かでない臨時国会など、例を挙げればきりがありません。

また、政局もたいへん不透明です。就任以来1年の間に三度目の改造内閣に踏み切った野田政権ですが、野党からは「幕引き内閣」「断末魔内閣」と酷評され、身内からも「論功行賞」とか「選挙目当て」と揶揄される始末です。デフレ、景気低迷のもとでは増税はすべきでない、というのが経済の常識、鉄則だそうですが、財務省の言いなりで遮二無二に増税のみにひた走り、行財政改革にはまったく手をつけず、エネルギー問題に対しても場当たりのことしかできず、自ら身を切ることなしに国民に負担のみを押しつける現政府には、とても政権担当能力があるとは思えません。

しかし、政権交代が目される自民党ですが、総裁選を見る限り、地方と国会議員とにおいては、かなりの差異があり、かつて政権を勝手に放り投げた方が再び総裁に就任する結果となりました。最近マスコミの批判的な攻勢で一時に比べ、人気に陰が射しているともいわれていますが、やはり台風の目である橋下徹日本維新の会代表とも安倍新総裁が近い関係にあることから、選挙対策としての国会議員の露骨な気持ちが現れたのではないかと思われそうですが、こちら国民不在といわれても仕方ないような状況のように思えます。

さて、このように国の動きがいかにも加減であっても、地方自治体や地方議会は、住民のためにしっかりと勤めなければなりません。以下、国と地方行政との関係について述べてみますが、地方政党として、また地方行政・政治に対して、よい意味でも悪い意味でも大きな足跡を残した現日本維新の会代表・橋下徹代表を事例に揚げ、国と地方自治体との関係について話を進めます。

毀誉褒貶の激しい橋下代表ですが、地方政党としては多くの功績があります。非常に印象に残っていることですが、府知事時代、府内市町村への補助金・交付金カットの方針を打ち出した際、各市町長から総スカンを受けたとき、涙を流しながら、人件費が高すぎることを理由に応じるよう訴えました。

平成22年度の統計ですが、地方自治体の財政状況を知る上で非常に重要な財政指標である経常収支比率(地方自治体が最低限の行政運営を行う上で、経常経費の度合いが占める割合を数値化した指標)ですが、ワースト50位の内、10市が大阪府内の市がランクインしていることから橋下代表の指摘は実には的確だったと思えます。

また、「ぼったくりバーの請求書」発言も、直轄事業という国の公共事業で、本来、国がすべて責務を負うべき事業にも関わらず、地方自治体に事業費の一部を負担させ、大きな不満となっている現状に対する異議申し立てです。地方自治体にとっては、大いに文句を言いたいところですが、国からの紐付き補助金や各種交付金などがなければ、地方行政は成り立たず、ともかく国には注文をつけられない地方自治体の悲哀から、溜飲の下がった行政担当者や地方議員も少なくなかったのではないかと思います。

以下、橋下代表が維新八策のなかで触れている

「消費税の地方税化と地方交付税の廃止」について触れてみます。

地方交付税とは、財政の豊かな大都市部の地方自治体と財政基盤の非常に脆弱な過疎の地方との格差を是正するため、本来、地方税として徴収すべき国税である所得税、法人税、消費税、酒たばこ税の25%~30数%を国が一時預かりをし、地方自治体へ再配分する税金のことで、地方自治体にとっては、たいへんありがたい税収となっております。

法律上、国と地方は対等の立場と定められておりますが、現実にはなかなかそうは参りません。その象徴的な点がこの地方交付税で、法令上の考えとしては、本来、地方自治体が行うべき徴収作業を国が代わって行っている事業とされておりますが、現実的には、渡す側と受ける側では大きな優劣が生じております。

紐付き補助金や各種交付金も同様で、こうした国と地方自治体との関係が法令上は対等であっても、現実的にはれっきとした上下関係が生じていることからして、真に地方の自立を促す上から、地方交付税を廃止し、その代替として消費税の地方税化を主張しているのが橋下代表です。

その根拠として、国税の内、所得税や法人税は大都市と過疎の地方では大きな格差があるのに対し、物を消費する度合いは、量はともかくとしても率は大差がないというのがその事由のようです。

たしかに、地方自治体の政策如何ですが、消費を大いに促す施策を行えば税収も上がるわけで、場合によっては、国の経済対策よりはるかに効果が高まる可能性はあるかもしれません。

しかしながら、年々増え続ける社会保障制度の財源とすべきとして消費税増税に踏み切ったわけで、こうした財源の代替案は示されておらず、加えて、消費税額だけでは地方交付税の額を満たすことができず、その差額は地方自治体の責務において大胆な歳出カットなど行財政改革と歳入増(具体例は示されず)で対応すべきという橋下代表の主張もずいぶん乱暴な意見と言わざるを得ないものと思えます。

また、消費税増税法案が成立し、全国の知事会は地方税の増収に安堵しているとのことですが、ここにも大きな課題があります。

まったくマスコミも触れておりませんが、それ

は医療関係です。つまり、医療費は消費税非課税であり、おおよそ7割の保険診療も、3割の自己負担分も消費税を支払うことはありません。

しかし、医療機関は、医療機器や医薬品、委託事業など、諸経費には消費税がかかります。つまり、免税業者が消費税は徴収しても支払う義務がないことから、その消費税分は事業者の懐に入ることになり、これを益税と呼んでおりますが、医療機関はその全く反対の事象が生じ、消費税は支払うが、その分の収入は入らない、いわゆる「損税」ともいふべき状況が生まれることとなります。

国の医療費抑制政策の余波で、全国の公立病院の8割が赤字経営で苦しみ、自助努力により、ようやく立ち直りかけている状況の中で、この消費税増税は著しく病院経営を圧迫することになりかねません。しかし、国はこうした事態に対して、まったく考慮もせず、議論さえ見られませんし、マスコミもまったく理解さえしていないのが現状です。国や国会議員の責務が今こそ、大きく問われるべきものと思えます

今週の一言

内山 淑夫君

『私の父・母』

私の父は天竜横山の出身で8人姉弟の一番下、五郎という名前でした。長男から太郎、二郎となっていました。あまり深く物事を考えない両親だったようです。林業高校をでてからやがて材木屋として独立し、私が小学生の頃にはイギリスの車に乗っていました。毎晩清水銀座で呑み、時流に乗って事業拡大したのですが、私が20才の時に倒産しました。以来、私は外車という遊び人というイメージがあります。

一方、母は自宅で美容院を営み大酒のみで見栄っ張りな父親の影を支えていました。当時の美容院は住み込みが普通でしたし、そのうえ父の関係で朝夕家で食事をしていく人間もあり、朝から夕方までごった返しでした。ハヤメシはこのころのセイです。

父母共にアキンドでしたが何故か私は学級肌になってしまいました。

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
10/12(金) 第 1013 回	外部卓話 1	
10/19(金) 第 1014 回	第 2 回職場訪問例会 12:50 葵カプル集合	
10/26(金) 第 1015 回	会員卓話	
11/2 (金) 第 1016 回	新会員自己紹介	
11/10(土) 第 1017 回	野外例会 花沢の里 満観峰	

(担当 / 伊藤恒君)